

# 目 介 祐



大田ゆうすけ No.18  
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

とした福祉も無いのではな  
いか。同様に生活保護費も  
私が訴えてきた後発医薬品  
の使用等により前年比約3  
億円を削減した125億円  
となり、10年ぶりに減少傾  
向に転じる。

## 福山市平成25年度予算

新年度予算を審査する、一年  
で最も重要な議会が始まった。  
長引く不況で税収が伸び悩む  
反面、障害者福祉等の民生費は  
急増している。そこで今まで以  
上に事業の選択と集中が必要  
となってくる。

私が委員長を務める民生福  
祉委員会では、市内1万5千人  
に対して年額1万3千円、2  
万2千円を給付している「重症  
心身障害者福祉年金」を廃止  
し、約2億円の財源を捻出す  
る。そして、今後多数必要とさ

れる市民後見人の養成を始め  
とする障害者の総合的な権利  
擁護事業に取り組むこととし  
た。要するに広く薄くバラまく  
ことは止めて、より効果的な施  
策に転じたわけだが、福祉に対  
する視点の違う議員にとつて  
は納得できないため、時として  
激しい論争となる。しかし、障  
害者を社会全体で護ることに  
対する投資より目先のお金が  
大事だとすれば、これほど殺伐

また、1千億円を超える  
事業債を抱える下水道も「福山  
市公共下水道事業経営計画」を  
策定し、今後5カ年の財政見通  
しを公表した。これによれば企  
業会計に移行して独立採算と  
なったはずが、毎年10億円前後  
の一般会計からの「基準外」繰  
入が必要となっている。この経  
営計画の策定も私が求めてき  
たところであり、少しずつベ  
ルが剥がれるような手応えを  
感じる。上下水道局も先行きが  
見えたことにより、新年度に三  
川ダムを利用した小水力発電  
に取り組むなど、新規財源を確  
保するべく努力している。

ところで議員40名の報酬総  
額は平成25年度予算総額31  
50億円に対して0・2%で  
しかなく、福山市の予算や財政  
運営に対して公に注文が付け  
られるのは議会だけである。一  
般企業における監査役的な存  
在の議会をいかに機能させる  
かが重要ではないか。定数を削  
減するのも良いが、より「精鋭」  
が選ばれるようにしなければ  
ならない。